

なお、表の中で計器の許容誤差は、最大目盛に対しての値です。  
理振法での階級は 2.5 級と指定しています。

## 2 使い方

### (1) 電流を測る場合

電流を測定するには、電流計を負荷と直列につなぎます。(図-1)

この場合、電流計の⊕端子は電池の⊕側に、反対側の端子は電池の⊖側につなぎます。(交流用の計器では、この⊕⊖は関係ありません。)

ところで、理振法適合の電流計には、⊕端子のほかに 5 A, 500 mA, 50mAの 3つの端子がついています。使用の際は、まず大きい数値 5 Aの端子に入れてみて、およその電流を読み取り、たとえば 0.5 A弱つまり 500mA弱程度であれば、500mAの端子につなぎかえるようにします。こうすることによって、より精度の高い読み取りができるわけです。

また、目盛は多重になってあるので(電圧計も同様)読み取りには、注意を要します。

例えば、500 mAの端子を用いた場合、図-2 のように指示したとすれば、上側の目盛から 360 mAと読み取ります。

### (2) 電圧を測る場合

ある負荷の両端に加わっている電圧を測定するには、図-3 に示すよ

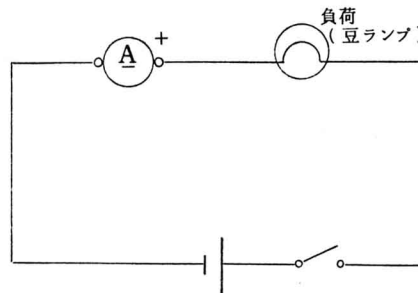


図-1 ランプに流れる電流を測る

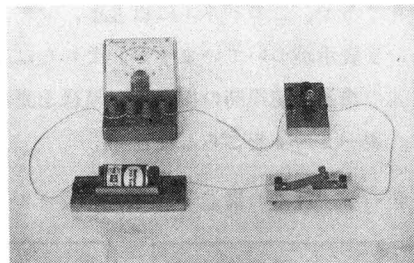


写真-2. ランプに流れる電流を測る

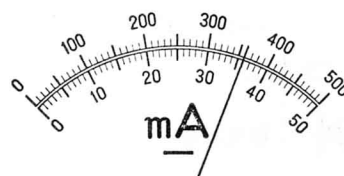


図-2 500 mA端子を用いているから、読み取りは 360 mAとなる